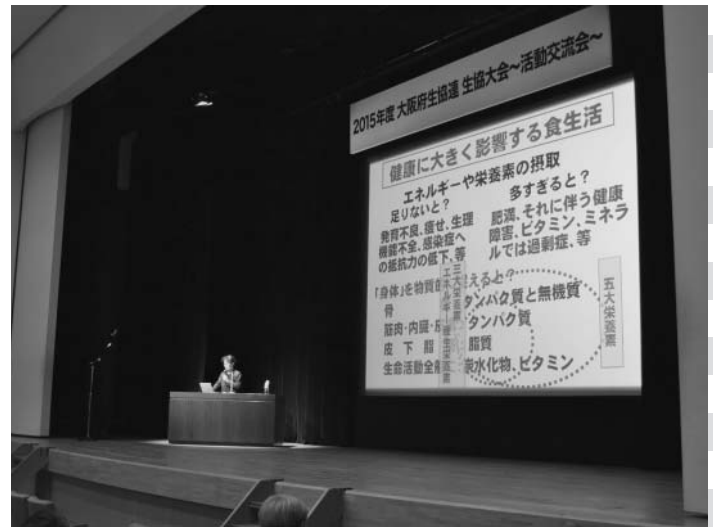


# 会報

KAI-HOU

No.320  
2016.1.1



2015年度生協大会

	新年のご挨拶	1
[開催報告]	2015年度生協大会～活動交流会～	2
[取組報告]	東日本大震災支援活動「クリスマスカード・手芸材料キットづくり」	4
[連載]	“女だから” “男だから” はもうやめよう	5
[スケジュール]		6

---

# 新年のご挨拶

---

## 本末転倒には気をつけて



大阪府生活協同組合連合会  
会長理事 惣宇利 紀男

皆さま明けましておめでとうございます。

昨年も色々なことがありました。例えば国際社会では、アメリカを中心としたグローバリズムとISとの対立が鮮明でした。グローバリズムを是とし、相手方をテロという烙印でひとくくりにする手法が果たして100%是と言えるのか疑問に感じます。フランスで開催されたCOP21では、環境問題が中心のテーマでしたがいつの間にかいわゆる先進国と発展途上国間の所得分配の問題に帰着し、それは歴史観の相違とも言うべき問題に行きつきました。これらの問題の所在は異なりますが思考様式は極めて似通ったものでしょう。

国内に目を向けても、安倍政権のもとで旧3本の矢の結末がはっきりしないまま、新3本の矢が提唱され現在に至っています。旧3本ではデフレからの脱却が目標とされ、3本の矢が用意されました。デフレからの脱却はどこへ行ったのでしょうか？手段と考えられる3本の矢の是非が検証されないまま、今度は新しく三つの目標が設定されました。2020年頃にはGDPを600兆円に、2020年代初頭には希望出生率を1.8くらいに、そして2020年中頃には介護離職率をゼロにというわけです。

これらは敢えて言えば目標ですが、今回はそれらを達成するための手段が示されませんでした。手段として利用されたのは、官民の対話政策です。政府の目標を達成するためには、例えば民間企業にどれだけの設備投資や賃上げを実現してもらう必要があるか。一方民からすれば法人税や規制緩和がどれだけ進めばその条件がのめるかといった条件闘争です。悲しいのはこの議論には主役たる国民は材料には使われるが中心にはなっていないことです。政府は国民のためにあるのであって政府自信のためにあるものではありません。

同じような現象が昨年末生協活動にも起こったようです。過去にも幾つか例があったようですが、今回は全農が販売していた肥料の成分表示に偽装があったという事件です。問題の肥料で育てた米などが有機栽培などとして高値で売られていた場合もあり、生協が代金の一部を返金したり、その米を使った酒造会社が商品を自主回収するなどの騒ぎになっているようです。問題はこの偽装が10年以上前から継続していたことです。生協は手段であり、目標は会員の健全な食生活のはずです。生協の存続が目標であり、会員の食生活が手段となるのは本末転倒ではないでしょうか。

大阪府生活協同組合連合会の会員におかれましては、日常性の中でこういった転倒が起こることのないよう、今年もお互いに襟を糺して日々の業務に励んでまいりましょう。

## 2015年度 「生協大会～活動交流会～」を開催しました

11月25日(水)ドーンセンター（府立男女共同参画・青少年センター）7階ホールおよび1階パフォーマンススペースにて「2015年度生協大会～活動交流会～」を開催し、18会員生協、他団体等から314名が参加しました。

今年の生協大会は、「食・食育」をテーマに、講演会と、会員生協の取り組み事例を学びました。

生協大会実行委員をされている大阪いずみ市民生協の安嶋理事の司会により開会し、惣宇利会長理事からの挨拶の後、基調の講演会を行いました。

講演は、群馬大学名誉教授の高橋久仁子様を講師に「メディアに惑わされない食生活～食情報とフードファディズム～」と題してお話いただきました。

高橋様からは、「健康に関する食情報がマスメディアや産業界から大量に提供されるなか虚実入り混じる情報が食生活に影響を与え、時に食生活を混乱させている」「横行するフードファディズムには①健康への好影響を騙る食品の大流行。②量の無視。③食品に対する期待や不安の扇動。の3つのタイプがある」「マスメディアとフードファディズム：売れる情報には視聴者や読者の関心を引くために虚偽や誇張、事実誤認等のフードファディズムが多々紛れ込む」「健康食品およびその宣伝広告が包含する問題性①有害物質の含有。②医薬品成分の含有。③一般的食品成分でも病態によっては有害。④抽出・濃縮・乾燥等による特定成分の大量摂取が問題を惹起。⑤高齢者の代謝に過剰な負担。⑥医薬品利用者での薬剤との相互作用。⑦食生活の改善を錯覚。⑧生活習慣見直し不要の錯覚。⑨治療効果の過信で医療を軽視。⑩非食品の食品化。その他経済被害もある」「特定保健用食品の「効果」はごくわずか」「機能性表示食品制度について、届出制がもつ問題性」「キャッチコピーの行間は読まない、読むべきは栄養表示」「がまんしないで・好き放題に・飲んでも食べても・太らない。という方法や健康食品はない。

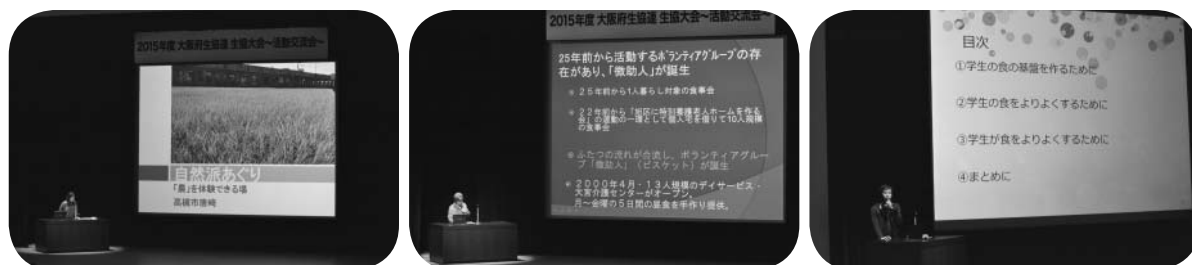


高橋先生の講演会

適度に動く・寝る・食べる・健康管理の基礎基本」等について講演いただきました。

会員生協からの活動報告では、食・食育に関連する取り組みとして、コープ自然派ピュア大阪さんからは「食に関する学習会や料理講習、お米づくりや田んぼの生き物調査、男性の料理教室の取り組み等」。ヘルスコープおおさかさんからは「高齢者が多い地域での25年間続くボランティア活動。昼食会・食事会・配食サービス、健康チェック、お誕生会、見守り活動等」。大学生協からは「学生の食の基盤づくり、ミールプラン、食生活相談会、料理教室等」の各取り組みについて報告がされました。

2部の展示交流会では、大阪いずみ市民、大阪よどがわ市民、おおさかパルコープ、コープこうべ、コープ自然派ピュア大阪、きづがわ医療、ヘルスコープおおさか、全労済大阪府本部と大阪ユニセフ協会、大阪府食の安全推進課からの出展で交流が行われました。試食や試供品の配布等、例年以上に盛り上がりました。



コープ自然派ピュア大阪、ヘルスコープおおさか、大学生協 大阪・兵庫・和歌山ブロックから活動報告



展示会場での交流



## クリスマスカード・ 手芸材料キットづくりをしました



11月16日(月)と11月19日(木)の二日間、東日本大震災被災者支援活動として、「クリスマスカード・手芸材料キットづくり」を行いました。

この活動は、「クリスマス等の祭事に被災者にお届けするカードが年を追うごとに少なくなっている」「被災者の方達が集うお茶会等で使用する手芸材料などのニーズもある」とお聞きしたことから実施しました。

大阪府生協連で実施した被災地支援バス企画の参加者を対象に参加を呼びかけ、25名の方にご協力いただきました。

クリスマスカードづくりでは、なれない手作業にてこずったり、どんだんのめり込んでいたり、持ち帰って家族で作ってきたり、色んなやり方で、50枚の素敵なカードが完成しました。



手芸材料キットづくりでは、飴ちゃん等\*を入れるポーチを作る材料キットの袋つめをしました。お家にあるハギレを持ち寄り、布、ひも、ひも止め、作り方に、メッセージを添えて、140セット作成しました。

クリスマスカードと手芸材料キットは、いわて生協さんとみやぎ生協さんにお送りし、被災者にお届けすることが出来ました。ご協力いただいた皆様、大変ありがとうございました。

\*大阪人は飴には親しみをこめて「ちゃん」をつけます。  
ちなみにガムやチョコレートにはつけません。一諸説ありー



# “女だから”“男だから”はもうやめよう!

## 私が思う男女共同参画

生活協同組合コープこうべ  
大阪北地区活動本部長 森畑 哲洋

最初の娘が生まれたとき、連れ合いは都市銀行に勤めていました。産後休暇は、労基法が定める「6週間」だけで、翌月には職場に復帰しました。育児休業法以前の銀行には、産後も勤め続ける前例は少なく、彼女も生後ひと月のわが子に後ろ髪を引かれながら職場に戻っていったのだらうと思います。

当時、私たちが預け先として選択したのは、「共同保育所」でした。文化住宅2階の一間を借り、親たちが運営費を出し合って家賃や保育士の給料などの経費を払って運営していました。親の職業も結婚のカタチもさまざまでした。子どもが普通の保育所に移っていくにしたがってメンバーは入れ替わっていきます。昭和40年代からバトンをつないで活動してきたグループで、ある時期は私の実家の前の民家で活動していて、活動の趣旨も実態も知っていたので、躊躇なく加わられたのだらうと思います。運営資金を捻出するために公園でバザーをやったり、綿菓子やミルク煎餅を売ったりしました。市議会議員に視察に来てもらって、「保育行政についてどう考えているのか」と詰め寄ったこともあります。

30歳前後の若い働く親たちが、自分たちの力を寄せ合って必死になってやっていました。高邁な理念があったわけではなく、差し迫った必要から続けていたことです。地域に先輩はいますが、運営はあくまでもそのときに関わっている親たちの自主・自立で進めなくてはいけません。夫婦ともどもエネルギッシュな人ばかりでした。

当時、店舗に勤めていた私は、遅いシフトに回してもらい、少し余裕を持って職場に入るようにしていました。毎朝、3人一緒に車に乗って家を出て、まず保育所近くの駅で出勤する連れ合いを降ろし、その後、娘と私と二人で保育所の近くまで行って車を止め、約束の午前8時を車中で待って部屋に連れて上がっていました。

ある朝、文化住宅の階段をのぼっている途中、おくるみを支えていた右手に「ぷりぷり」という震動が伝わってきました。その時に私が取った行動は、「現場からの逃亡」でした。何も起きなかったような顔をして保育士さんに娘を手渡したのです。オムツの替え方を知らなかったわけではありません。思えばあれが当時の私の「限界」だったような気がします。「オムツは保育士に任せておけばいい」というお客様意識の問題なのか、あるいは私のジェンダー意識の歪みなのか、このどうでもいいような些事をいまだに覚えているからには、何か「やましき」を引きずっているのは間違いのないのですが、そのときの私の心象をうまく捉えることができないので、これ以上は書きません。この「捉えられない」というあたりが、私の課題の肝だとは思いますが……。言い逃げゴメン。

## スケジュール

### 1月

- 5日 仕事始め
- 6日 臨時ジェンダーフォーラム協議会
- 12日 全国政策討論集会（～13日）
- 14日 近畿版広域地震対応マニュアル訓練説明会
- 21日 第4回理事会
- 21日 新年講演会
- 25日 東日本大震災被災地支援「ひな祭りカードづくり」（～27日）
- 27日 第1回文楽・コンサート実行委員会
- 28日 関西地連第4回運営委員会・県連活動推進会議
- 29日 第3回組織活動委員会

### 2月

- 2日 近畿版広域地震対応マニュアル検証訓練
- 17日 第2回文楽・コンサート実行委員会
- 18日 優良役職員大阪府知事表彰授与式（予定）

### 3月

- 3日 ジェンダーフォーラム協議会・学習講演会
- 3日 第4回ジェンダーフォーラム協議会
- 9日 第3回文楽・コンサート実行委員会
- 15日 会報 No322発行
- 16日 第1回生協大会実行委員会
- 17日 第5回理事会
- 25日 第3回近畿地区生協府県連協議会

### 4月

- 6日 第4回文楽・コンサート実行委員会
- 13日 第2回生協大会実行委員会
- 21日 第4回組織活動委員会